

第10回推進会議の概要

令和2年3月
長門市

日時：令和2年3月10日（火）13：30～15：30

場所：長門市役所3階大会議室

【主な概要】

1. 民間投資の進捗状況について

- ・特段の質疑なし

2. 公共空間の整備状況について

（岩田委員）歴史にちなんだ名称を付けたことがよい。

3. 温泉街のコンセプトについて

（星野委員）全国に親水性のない温泉街が多い。長門湯本の特徴を「オソト」として表現したことはすばらしい。インバウンド客にとっても発音しやすいコンセプトであり、覚えやすいフレーズ。そぞろ歩きが楽しめる温泉街を実現しようとするコミットメントが表現されている。

（内田委員）簡潔な表現でいいと思う。どのような楽しみ方ができるのか、事前にPRしていくことが重要。地域資源として大寧寺や長州黒かしわなどの歴史があり、そういったことも伝えていけるとよい。

4. 来年度以降の取組について

（1）来年度のエリマネ法人の取組

（星野委員）全国ではDMOがあまり機能しておらず、補助金の受け皿となるために設立されている事例となっている。今回のエリマネ法人は日本でも珍しい存在となる。

（大谷委員）小さなエリアで取り組んでいる長門湯本温泉ではこのような仕組みが、効果があるだろう。

（2）今後の推進体制と観光地経営モニタリング案について

（内田委員）従業員の教育もエリマネ法人が行うのか。リピート客がつくかなども指標となる。

（星野委員）全国では入れ込み客数で評価している。これからは数から脱却を

図るべき。最初から正確に捉えようとしなくてもよいのではないか。取組を進めながら見直しを柔軟にしていくことが重要。特に2. の RevPAR と 5. の従業員満足度が取りづらい指標。定点観測ができればよいくらいの感覚でもいいのではないか。従業員満足度については星野リゾートでも採用している GPTW (Great Place to Work) などの第三者機関による調査を活用してもよいのではないか。

SNS での露出についても金額換算が可能。予算があればできる。4. の生活者の関与については、収集が難しいだろうが指標として取り組むことはすばらしい。

5. 観光まちづくり計画の取組の総括について

(坂倉委員) cafe&pottery 音があり、集まる場所が生まれている。計画にあった登り窯については当初は難しいと考えた。ただ、街が変わっていく中で意識のハードルが下がってくるとできることもある。三ノ瀬は独特の雰囲気のある場であるが、何かやり方があればいいと考える。

(星野委員) 県の風営法条例の改正は大切なこと。取組を進めてほしい。

暫定地 1 (恩湯広場の法面) はメインエリアにあり、全体のイメージに影響を与える場所と認識。そのための配慮として、植栽を植えるなどの対応が必要かもしれないので考えてほしい。